

---

# フロースンシトラス

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

フローズンシトラス

### 【Nコード】

N7124U

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

【シーブリーズシリーズ第三弾】彼女と出会って数日。彼女はシーブリーズを勧めてくれた。だけど

彼女と出会って数日。

彼女はシーブリーズを勧めてくれた。  
だけど

結構匂いの種類があつて店頭で悩んだ結果。

「じゃあ、私も行くよ」  
という結末になった。

「道野瀬くんは、甘酸っぱい匂い似合いそーだよねッ！」  
と爽やかな笑顔が俺に向けられる。

こんな笑顔を独り占めに出来る奴、羨ましいなあ。  
・・・というのはアレだ。

噂で聞いただけなんだが、彼女に彼氏ができたらしい。  
クソ、羨ましいぜ・・・。

「ねえ、聞いてるー？」

「えっ！？す、スイマセン・・・」

「ふふ。じゃあ、これだねッ！」

と、差し出されたのは黄色い爽やかなパッケージのシーブリーズ。  
イメージ的にはレモンといったところか。

「えへへっ、えーつとね、”フローズンシトラス”って言うんだよ  
？」

「へえ」

よく見れば渡されたのはテストターだった。

強制は、しないらしい。

嗅いで気に入ったら買って、的なのだろ、きっと。  
・・・匂いは。

俺の想像通り、レモンだった。

「どーお？」

顔をのぞき込むように聞いてくる。

その仕草がまた可愛い。

「えと、なんか、爽やかっすね」

「敬語やめてよぉ！ね？」

「は、はあ」

つくう~~~~~！

可愛い！ああーあ、彼氏ボコりたいぜ……。

俺はその後、それを購入することにした。

レジに並んでいる間、ふと後ろを向くと彼女がいないことに気づく。  
そのまま買い終え、出口で待機。

が、太陽がカンツカンに照っているので  
入ってすぐ有る休憩所でコーラを飲みつつ、待機。

「お待たせー」

とふいに後ろから声がかかる。

「アイスかったよ！」

どっちがいいーい？と問いかける。

ここはレディファースト。彼女に選択権を譲った……のだが。

「私どっちも食べたいなあ、ねえ、分けあいっこしよ？」

反則っすよぉ！！

ここで思い切って俺は聞いてみた。

「あの」

「なあに？かしこまっちゃってっ」

「付き合ってる人、居るんですか？」

「居るよ？」

きよとんととぼけ気味。

俺は地獄の底に落とされた気分。

「ここに」

と俺を指す。

「え？」

「？」

「ええええ！？」

「それじゃなければ、買い物についていたり、  
アイスわけっこしないもん」

語尾がまた可愛い。

「・・・じゃなくって！な、なんで俺？」

「そ、それはあ」

もじもじとアイスを口に含んでごまかす。

「それは・・・？」

「秘密っ！」

んべっ、と下を出す。

「あーあ、暑いなっ！もお、それ貸して！」

と俺のシーブリーズ（無論フローズンシトラス）を奪う。

俺の初恋は、フローズンシトラスの甘酸っぱい香りと共に  
成功を遂げた。

（後書き）

夏にはシーブリーズが必需品となりますよね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7124u/>

---

フローズンシトラス

2011年10月3日11時17分発行